

大雨・洪水について

内水ハザードマップ

保存版 ▶取り出しやすい場所に保管してください

わが家の防災メモ

わが家の避難先(親類宅・避難所など)	家族が離ればなれになったときの集合場所
--------------------	---------------------

家族の名前	血液型	会社・学校の電話番号	携帯電話番号

いざというときの連絡先

名 称	電話番号	名 称	電話番号
苅田町役場	093-434-1111	行橋京都休日・夜間急救センター	0930-26-1399
行橋警察署	0930-24-5110	国立病院機構 九州医療センター	092-852-0700
苅田町 消防本部	093-434-0119	新行橋病院	0930-24-8899
防災無線放送内容	093-588-1086	小波瀬病院	0930-24-5211

●情報の入手先

- 苅田町の情報
- 気象情報など
- 福岡県防災情報
- 福岡県河川防災情報
- 道路情報など

●テレビによる情報の入手例

- NHK総合テレビを表示し、リモコンの「d(データ放送)」ボタンを押してください。
- リモコンの矢印で「安全・安心ポータル」に合わせ、「決定」ボタンを押してください。
- 苅田町(テレビに設定している郵便番号で判定)から情報が発信されれば、「避難情報(準備・勧告・指示)」「避難所開設情報ボタン」が赤くなるので、選択するとそれぞれの情報が表示されます。

大雨・洪水に関する注意報・警報について

福岡管区気象台からは、次のような場合に注意報・警報が発表されます。

大雨注意報	洪水注意報	大雨警報、洪水警報	大雨特別警報
大雨による災害(土砂災害や低い川の浸水など)が発生するおそれがあるとき。	大雨、長雨などにより河川が増水し災害が発生するおそれがあるとき。	それぞれ重大な災害が発生するおそれがあるとき。	警報の発表基準をはるかに超える災害が予想され、危険性が著しく高まっているとき。

このほか、数年に一度の猛烈な雨が観測された場合には、気象台から「記録的短時間大雨情報」が発表されます。この情報が発表された地域では、近く災害の発生につながる事態が生じていることを意味しています。

大雨などのときには、テレビ・ラジオなどにより最新の注意報、警報の発表状況を確認するようにしましょう。テレビ・ラジオの他に、NTTレホンサービス1171や気象庁ホームページ(<https://www.jma.go.jp/>)でも確認できます。※苅田町に注意報・警報が発表される際の雨量基準などについては、気象庁ホームページで知ることができます。

特別警報が発表されたら ➤ たちちに命を守るための行動をとってください!

特別警報が発表された場合、お住まいの地域は数十年に一度しかないような非常に危険な状況にあります。周囲の状況や、町から発令される避難指示(緊急)・避難勧告などの情報に留意し、すぐに避難場所へ避難するか、すでに外出が危険な状態に達している場合には、無理をせずに家中のより安全な場所にとどまる等、たちちに命を守るための行動をとってください。

特別警報の発表基準

●大雨・暴風・高潮・波浪・大雪・暴風雪

「警報」の発表基準よりもはるかに危険度が高い場合に「大雨特別警報」「暴風特別警報」「波浪特別警報」といった表現で発表します。なお、「洪水」は、全国約400の河川において指定河川洪水情報を発表しているため、特別警報の設定はありません。

現象の種類	発表基準
大雨	50年に一度の大気(4時間降水量451mm、3時間降水量154mm)となり、周辺でも同程度の大気が降り続くと予想される場合。
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により、高潮になると予想される場合。
高潮	高潮になると予想される場合。
波浪	高波になると予想される場合。
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合。
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合。

*発表にあたっては、降水量、積雪量、台風の中心気圧、最大風速などについて過去の災害事例に照らして算出した客観的な指標を設け、これらの実況および予測に基づいて判断をします。

●津波・地震

津波・地震については、従来からの警報のうち、危険度が非常に高いレベルのものを特別警報に位置づけますが、名称に「特別警報」は用いません。「○○特別警報」という表現ではなく、従来の名称のまま発表します。例えば、大津波警報が発表されたときは、それが津波に関する特別警報が発表されたという意味になります。

現象の種類	発表基準
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合。➡大津波警報が特別警報に位置づけます。
地震(地震動)	震度6弱以上の大さきの地震が予想される場合。➡緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づけます。

*津波警報ベルを運用している火山では「噴火警戒レベル4または5」を、噴火警戒レベルを運用していない火山では「噴火警報(居住地域)/居住地域警戒警報」を特別警報に位置づけています。

災害への備え

地域ぐるみで取り組む防災・減災

災害発生時には、苅田町をはじめ、警察・消防などの防災関係機関が全力をあげて対応にあたりますが、火災や道路の寸断・断水・停電など様々な被害が広い範囲で起きた場合は、対応が非常に困難な事態が予想されます。このような場合には、地域ぐるみで協力し合い、助け合うことが大切になります。地域の自主防災組織を結成して、防災知識を身につけることや、いざというときの役割分担を決めるなどして、地域の防災力を高めましょう。



防災について家族で話し合おう

災害時に最も頼りになるのは家族です。家族そろって防災について話し合いましょう。

①家族一人ひとりの役割分担

火の始末の係、お年寄りや乳児などの安全確保の係、非常持ち出しがんの係など、家族一人ひとりの役割分担を決めましょう。

②家族間の連絡方法

災害はいつ起こるかわかりません。災害用の居場所を伝える方法を考えましょう。(災害用伝言ダイヤルの活用など)。

③避難所の確認

自宅、学校・勤務先から避難所への最も安全な経路と、家族全員が落ち合える場所を決めましょう。

④初期消火の方法を覚えましょう

消火器の置き場所や使い方を確認しましょう。

非常持出し品の例

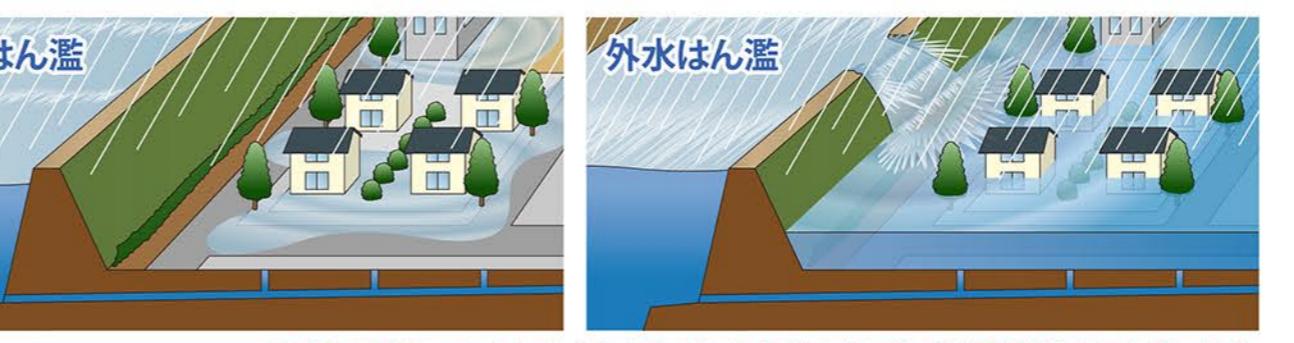
備蓄品の例

すぐに出せるもの	すぐに取り出せる(1週間分を用意)
ヘルメット(防災ずきん)	ライター
飲料水(500mlペットボトル程度)	カセットコンロ(予備のガスボンベ)
食糧 アルファ米、チョコレート、ビスケット、缶・缶不使用の缶詰など	ティッシュペーパー
懐中電灯・予備の電池	簡易トイレ(携帯トイレ)
非常持出し品 被服(寝袋、寝具)、靴(歩行用)、手袋(手袋)	手洗い用具
携帯ラジオ	ゴミ袋
急救薬(漢方や洋薬など)	布製ガムテープ
常備薬	キッズ用ラブ
ろうそく	ヘッドランプ
	※必要な時に応じて、紙おむつ、粉ミルク、生活用品など
	なべ

*黒島の残り湯は捨てずに溜めておきましょう。水洗トイレの薬用水や消火用水など、飲用以外の生活用水として有効に活用できます。

内水はん濫と外水はん濫

水害には、降った雨が水路や下水道などで排水しきれなくなることにより起くるはん濫(内水はん濫)と、川の堤防が壊れたり、水があふれたりして発生するはん濫(外水はん濫)があります。まずは、水害の発生するしくみを理解して、避難場所等まで安全に避難できるよう経路を確認しておきましょう。



その場で雨が降っていないなくても、川の上流で降った大雨により、下流ではん濫が発生することがあります。

風が強いとき・大雨のとき

毎年のように台風や集中豪雨によって浸水や土砂災害などの被害が発生しています。しかし、地震と違い、風水害はある程度事前に発生を予測することができます。危険が迫ったら早めに対応しましょう。

雨風が強まってきたら、まずテレビやラジオ、インターネット等で発表される気象庁からの注意報・警報・特別警報や、市区町村などからの避難に関する情報に注意しましょう。不要不急の外出は控え、危険な場所には近づかないようしましょう。

●風が強いとき



●窓や飛来物で、窓ガラスが割れ、破片が吹き込む危険があります。

●外側から飛来で、壁や窓ガラスが割れたりする危険があります。街路樹が倒れたりする危険があるので、近くの頑丈な建物の中に避難しましょう。

●海中の転落や高波に巻き込まれる危険があります。沿岸には近づかないようにしましょう。

●強風、豪雨時はサイレンなどの警報が聞こえないことがありますので十分に注意しましょう。

●大雨のとき



●床下・床上浸水の危険があります。家財道具や貴重品を高い場所に移動しておきましょう。

●豪雨で視界が悪くなると非常に危険です。あせらずに高台に移動しましょう。

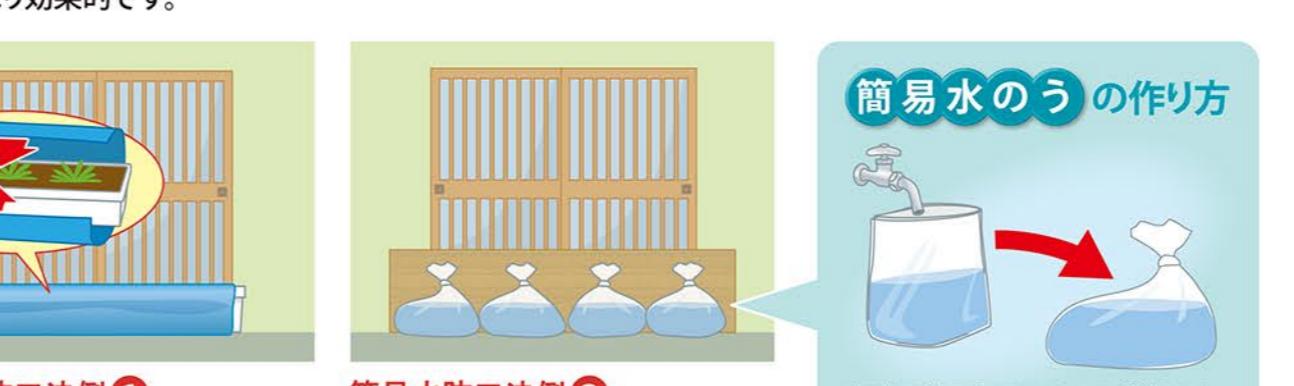
●急な増水や土砂災害の危険があるので、河川敷から堤防の外に移動しましょう。

●雨が降っていないなくても、サイレンなどの警報が聞こえないとエンジンを傷めてしまします。

●地下には避難しないようにしましょう。

浸水への備え

浸水が浅い場合には、土のう(無い場合は水のう)を設置することで、水が建物へ浸入するのを防げます。簡易的な措置として、植栽用プランターや石油用ボリタンク、長めの板(はしごやテーブルでもOK)などを、ビニールシートで包んで設置してもよいでしょう。道路よりも建物が低い場合や、地下室がある場合は、止水板を設置しておくと、より効果的です。



簡易水のう作り方

家庭で使用しているごみ袋(40リットル程度の容量)を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。

道路の側溝や雨水までの点検・清掃

●側溝や雨水までの集水口に泥や落ち葉、ゴミなどが詰まっているか点検しましょう。

●浸水の原因となりますので、詰まっていたら取り除きましょう。

歩ける深さは約50cm、水深が腰であるようなら修理は禁物です。

なるべく高所に避難しましょう。

はぐれないようにお互いの体をロープで結んで避難しましょう。特に、年少の子供や幼児は浮き袋等を置いて避難せましょう。

裸足、長靴は禁物。長靴は脱げやすく危険なので、紐で結ぶ運動靴がよいでしょう。

はぐれないようにお互いの体をロープで結んで避難しましょう。特に、年少の子供や幼児は浮き袋等を置いて避難せましょう。

お年寄りや身体の不自由な人は舟で運んで避難しましょう。

はぐれないようにお互いの体をロープで結んで避難せましょう。

お年寄りや身体の不自由な人は舟で運んで避難せましょう。

はぐれないようにお互いの体をロープで結んで避難せましょう。

お年寄りや身体の不自由な人は舟で運んで避難せましょう。

はぐれないようにお互いの体をロープで結んで避難せましょう。